再板

農業全書

諸木之類

九

特1
2296

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用

農業全書巻九目録

諸木之類十五種

松 第一
杉 第二
檜 第三
桐 第四
櫻櫚 第五
椎 第六
櫻 第七
柳 第八
婆羅得 第九
楤 第十
山茶 第十一
竹 第十二
箭を作る法 第十三
諸樹木栽法 第十四
接木の法 附養蠶 第十五

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

特 1
2296

農業全書巻九

諸木之類

松 才一

松ハ百木ノ長ジテ木偏ニ公ノ字ヲ書クヨリ二葉又三葉ノ物モアリ。四時共ニ凋ムコトナシ。和漢共ニ之ヲ愛賞ス。心業ノ松乃下ハ茯苓アリ。同ジク根下ニ虎珀モ生ズ。仍テ功能ある良薬ナリ。

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

松脂い絞りくち弦又引船とも塗そこの服薬膏
薬方用多きわけり ○うゆる法ぞ云二月初より
ぼきうどくれるとうとすぞ山時長根乃ちとくつ
けく深くうくきびーく蔵付れど拵るゆるし。ぼ又
面とんかけく裁へー ○又日二月の中云分のお秋ぶれば。
古を節。面とけくうゆれどぞまい浸るわけり
松とうゆるゆる。正月の中うゆ二月の中まぞうゆ
紙分の袋いまぞうくこうろこ
時ふし。本をしてちーしゆるゆるれそぞちをあ
ぼく付完を廣くかりぞをへまぞ浸とふしてうゆ
れどぞれ乃時くくも浸るわけり。松裁法の面を考ぜ

○又松のゆとうゆるゆへ九月丑未十月乃始ゆく寒
つくるぼぞりを多くれ芒よ掛げふし。粉日乃ぼ。
ひうきゆ蔵る時おくれべー。さて本云二月ぼよ
つ。二月上旬松ゆを浸ゆる又七日。ゆうゆげ
乾ー器。腐作りー。ゆ養をもう。ちーー前くだを
四又ゆもおゆひ。根をかきゆ月おゆひー。早せべさいくゆを
そくきぞれゆうゆひと絞すべかうどぞ松ゆ成て棚
とちべー。十月ゆりくい畧る糸がうゆどゆくゆかさ
を法とー。山風とふせぞゆくうゆうとちー。松苗のか
くうく移厚くとくべー。去三月ゆ成てゆうとかきの

けつ又薄あをうゝ紀州のゑもおかひをもをさ三年
の間ぽ三月ちをうく付をくうゝしうゆべーぷゆる法
右ゝ同じ。但苗地ハ移つく。肥こゝる地ゝ蒔をくべー。播
とる時。根のちを付るかゝ
ぬぶま ○又れ木と材木ろ伐時。伐ふゝも松の苗ハ革のごとくにそ蒔
とけば爰ゝなりゝく。必虫付くく中まぐく喰わく地也。
きりたをゝゝまく皮を剥て置べ。虫喰るかゝ○
又松ハまちぬ木をきわゝくゝげ心ゝてもみを
まれたをおかひ置べ。多年をつくれさうゝ薄くに
まふとなるわあり。但今日付ゝる法ちゝ本せざる

らありとも。一反ごろ苗ぐらぐ苗ぐらきちを入れ植
植れそ植て第ぐとなる。但苗ハ植れ多ーぜんぐ
ぬ人力を用ひく。第ぐとかさるゆくゝ。又ゝかい
やれあるらありべ。一株二株ゝらく。松ゝと二三株すき。
ちをかけ置べ。必生るわなり ○又松をさ本ゝ
もゝと苗書ゝ人ゝゝゝ。蕃ハ性の遠ゝる松
つとゝ人ゝゝゝ。ぐゝ松ハ地をちゝつぐくせも
ゝたふ材木ゝ用ひく。せれ助となる法木なり。但
地ある所。海辺ゝハ田畠のさゝりとあらねあゝいゝ
狩も多くゝるべ。但ゝ焼ゝ苗ゝ。松の枝葉ゝゝゆる

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

おもしさえれども田畠にもちゆふ強くうゆるものあり
まこ。為業田畠よりつねの事落かれども花さらま
ち癖ゆわかりぬよりあがきひまごとに植えれば多
年のよち花かつきあり。あしよくいたず花と成
べし田よりあとをねふそあり多くかつぬ必植へし

杉 オニ

杉は植まよ深れうる島本
あり。ようさし本共よ宜
しとうゆるものおくれ
ようく盛もあるあり

とあるべ九月よく実りうるを多くあり。苗ちなどに
掘干しおてあべし。但まくいうちおさげしてか
らよ三分一もあるなかしふ。ふ稼とあはすかうとも去
ぬちしあるようしかれ中に沼ふまうるねかれ
中ようまおてよくまずるあなり　○苗はいるに
も根ふるたのかうるひあるてかいるねとぬひなり
多ようあるとも多くいまきあるもおなしこれ
しさしあ。四二月雪落ちく暖ひうしよを洗
あよ漬二三日もとさあるとあ乾し。細養よりと食。
樹に筋とせでくはあ筋よおかひかまくち

と蔬付並ニ糞と引きくるもよし。せんわくるよあ
らば抜さうぶく博多ゆ浸とうだ日苗つ紀所。
柳とかさ日おかひとしとさ月一あうく紀はよ
てさうくこうば柳しうゆべしあいまざかさくゆく。
ゆ浸博多とうちるよかぶあしふくせ招もさうく
ふとうんく柳しうゆべし○又とうゆ法九月
ふ紙ろ苗地とい紙も肥し紙ゆてふして苗十
月苗べし苗植る入い右ゆ同じ。ゆる苗地をゆ
右うくこうく苗と植て一ずつちと
すとぷさうけくちげくうくとさて。糞ゆと

そくだ苗ふとるゆふつぐひくゆ苗浸くゆ柳しう
ゆべしぷうけ法ひとするもおよ同じ○
又さし本ぷうゆも紀るゆふうまの法ぐる。
柳ぐうん苗右ぐらもけ紀地ゆお年麻と苗る
法とうしとぷ地じそゆふうう家けさ所ぷ
さうるけうぷゆ浸柳くもさうんど○さし地法
こしゆるゆぷ二月わさ赤植れ地ことるう
びねと一尺ぐううぷ一尺ぷゆすの月の根の太ふて
うう尺合せさうくぷ苗れゆよ紫とゆ二三股法
しぷ柳ふくゆ切さうそだの方ぷう耳のごくるて

ぎ。先ん藤行れ矢がら行るるとさこを焼し。あつ
原ってくわづりかさめおかく個へとさ。兎をゆく。
完とみたすも深くつ紀ぎし。種乃さこさ。ろ乃んの
ろ行くよ。よんうそ。ろとさ。完よすたろかくか
くく蹴付べ。種のさ紀のさいころくこのあよ。
向行よさすよ。ろ紀。紀ゆ。ぺこ四すづ。ろをを
きてさすべ。梭いたゆくくうゆるなどよ
くさうゆるゆくくうすくろ。ろ。ゆて。ゆとをし。
二月の節れおぼ。紀。紀んくさせぺ。なよ一なも
梭ゆかし。よ。よ。ゆよさし付よする時。ろと。兎尺

とくくさし。ろう。梭。梭又たる本ゆ梭などの
時ろゆさ伐ゆくく梭くよ。ろ。ゆくよ。たゆ材木ともる
ろべさ。ゆ。ろてそたくく。そころ。ゆ。ゆを。ゆ。ゆ。
しておし。ゆ。ゆ。ゆ

くさう安くかるくしてかるくしてかるくして

材木などぼうびおりて人夫一人にて費多くして益なき
ものなり。移植いそぎ便こと係人係もうまいにくきことなり。
ざるゆへ人夫ひまどるべし。奥ぶかなるべき程なり。
是ほどりをきるよ此ごとく人も紀一寸ほどの苗ようの
苗ぶ一よりまずは材よりひて性ようぶ。是をあて植とこそ也

桐 第四

桐こ性あり。培桐いまも桐
と云ぞ。是あとく若なく
して重よ生じ。肌落して
しく性つよし。四月花

とひしきこの月よ実を結び。秋熟して。まるかくも
食し。物にも食すべし。めづらしき菓なり。又種
桐月と称するとこそあり。閏月まで称するわあり。
こ、かぐて十二条あり。一方よ六条づつ。閏月ある
年ハ十三条なり。ふを所。お国ともるべし。又立物
月とも称ぞ。この月に初りて一条宜。花もこれ
いよいよ多なるもの。そ。蕾ようく人蕾くも色すべきま
なり。三数ある霊木なり。九月子をとりをきて二
三月をこの月人夫ぐりよ。九時を作り。あとおの
能ひきそかれこの。実人すよ一粒づつ。樂人蕾と

肥土と合せ、藁をおりひしぎてねさいくゝみ、そゝ
ぎ水に乾りすべし。肥地かわぐ、そゝ年にてるさ七
八尺よもるゝおゆり、そゝよりてはつるまるなどゝ品
に多く蒔本と一ねづゝ植べし。害虫霜よ痛む
おそれる所はひぐゝくしてそゝぐやうすべし。求め三
月中。稲しうめへ、そゝをとりはこひて及びどゝ
植樹と成てはつれの内とお刈ゝくゝ痛むわぐおゆく
ゝ人のゝるなり。○稲苗書に板にて百乃苗よ
刈ゆる稲ゆり山稲よはいかしと云紙あしぐゝ苗屋
ひゝうゝ行る。殺の中にてうゝんわぐ蠟乃羽のごゝく

うそゝ藁とはゝくぬもれありさしぐも。れそとそて。
面れ出よあゝゝぬ所のきれ下ぬきゝんの下るなどと
かく日風面もつゝくあゝずしてゝ肥うる地よぶ
ゝ尾ゝ所ゝ豆肥土とも加へうる沼蒔ゝくゝあ
ゝゝすくゝがやなどとうすくゝ所ゝ豆ゝ石亀の品よう
生ゝて面風よのゝわゝくゝうりうるとゝゝうる云同冬
ゝ行りゝく木れゝゝどゝん合せ藁しうゝゝべし。牛羊稲
しそハ植るものゝゝ心ゝ木ゝそているしゝとゝゝどゝ。ゝう
扶貝面のゝ肥地藤の里ゝ島なゝのゝうゝゝ
さ白ゝ。所植とゝんゝてうゝべしゝ肥ゝよ完ゝゝり。

把てるたゝ拔るよりどぞ[illegible]
こをよくようぬのとうにたぞくに本をゆひてるゝ[illegible]
さきゝべゝ本ごとにつきさけをゆひそてるゝ[illegible]直よる
ぬぐくのぐべゝ。用本よりするぐをきとぐこをまくふゝせゝ
かゝをさいみく。拔のくけものびざるゝ。ちゝ像ちりこさり
てかはようゝ。あれいゝぐるゝ。ぬゝ行のかゝくもゝ。包こと
くべゝ。ゆうゝ立立中ゝ。ニ立ゝ拔ものびあるのすり。
拔ものゝ拔作とゝをゝと立張ゝくゝ。風よもたとれざ
るゝよゝをくべゝ。おゝうゝはゝるゝゆゝ大くゝ出くゝのび
きゝゆゝゝすれゝるゝ生生ゝ。ぐゝ。あゝるゝをゝゝまく

とゝきゝるゝよゝくゝぶれゝぐゝんれゝを廣くゝて本の肌あゝら
く柔らゝかゝりゝ強ゝよゝ彎くゝ切ゝくゝあゝるゝあゝ立ゝ。あゝん
て本れれゝゝゝゝず。又樂業ゝよゝ作るゝへゝゝる紙の出ゝるゝよ
ゝゝ生ゝじゝ。月風ゝゝくゝ。面ゝる所の本ゝをゝゝ物ゝまくく
寄ゝゝくゝ鳴ゝゝくゝゝる。ゝ寄ゝゝ。○又桐花とあゝゝゝ
抱ゝゝくゝ。実ゝ甚ゝ多くゝかゝりゝくゝ。ゝ油ゝ多ゝゝ。ゝゝ油
と三分一合せ。塩ゝ入ゝくゝ。物油ゝゝて。出ゝゝくゝゝる。ゝ
く物ゝるゝとゝゝゝ。又面ゝ入ゝゝくゝ。ゝ新ゝゝ桐油
ゝゝつゝくゝゝ。今ゝ出れゝゝゝゝくゝ作れゝものゝとゝゝあゝ
らゝくゝ仕ゝるゝとゝかゝるゝゆゝかゝくゝ。ゝゝするゝ。又ゝ色ゝ。ゝ

よ加へく煮おと煮うよハ腸とねり合せてくハ湯よ
ひ用ひく煮おとめり船とめり。唐人の船よりもん
とかくると云ハ山おなるべ。おおにくわぶらせんと
呼なり。而よりよう油ともとなり。又虎子桐とも
云なり。○うめ湯ぶく煮うの向し煮くると搗ひと
度ともて。俵おどよ入とき。絶ハ湯くよりく。
さうくくくもおハさりけもハ。風高のにくようねぶ
に。一紙づめ深く完とかり。一完よ一二粕づくとも。
中おて粕ハけくさを一年兎とくけ立べ。粕年
とへおとしてうり煮へ。実多くなる

られなり。材木薪にしてハさけよく益なれ木なれども。
油の多くさるの。是よこあるおかし。よるあるハ本れ
子ハ秋大風よあひくハいまでそ。れ絶れ本に落るおな
れども。ひおハ七月中にろくと実うり。大風のぶろへいろ
付毎年皆損をるのハかし。得多く損るし。地じ
て出ものよ。薪油多くれど。和の切ようくけとまり。雪和
と豆はどくくなるの。油よ絞るおるし。絶ある所ハ。
かりぬび沼米。多くうゆべし。絶ハ実同どく油食和
よあやまりく入べくよ毒なり。れあつひも益と入。
ゆ四んのかりよとくべらず。○危桶ハ。材木の系

うえてそだてもつよさゆへ。もと多くうゑわけ。三月
盛長多し。園圃よりも多くうゑべし。又椶の木も桐
乃類あり。是又もじやすく材とすべし。木もとを云

櫻桐 才五

毒ありとうゑるハ九月彼岸
くらゐく熟し。うるとき儀
よ入まきちゝ泥こまをて。二
月芽わかるゝと。肥地と畦づ
くり。菜とうゑるごとく

しわ深樹葉とかさ。ぱらくかとうゑるごとく。二すん
ばかりぶ。一株づつうゑ。養生をいとおしひ。をよりうゑ
ちとかけとゝ付とゝべし。ぶくはるゝ和ぶりぶくゝ
芽ぶり。乾く時ハ薄あとそゝ地中とかさあざりて時
くゝ小泥うちうるハ当ようく栄へとる和なりぬまう
つしうゑべし。○梅しうゑる地ハ平地乃肥こる
ハ。盆也早くれども。地ハ特なるゆふらぐ。山林麓に
是乃屋敷乃ぶ。若くれ肥こるおかげ。ぶ白の大穀よ
ようゝぬ面ちどお屋敷する地必あるおるまぶんとつ
けくおむべし。竹の新なるゝ竹のまを

所にのろ宜しと人〻こゝろ〻ぶ。正二月九十月もうゑ
又は月毎に中もうゑ。深くおけば。あらぶと雖よ。
あらぶ。ぶ人とおもくうゑ。根と雲くしぶとそたれば
実あるとそくいあるよ。こゝ始さうゑ。ふたれさが
る葉をべ。陰〻切去。三度人もむくなりて。こゝ葉
扇にこゝ。ぶあにさぐうゑ。くあなりぶこゝ葉の茎
ハこかどあるく。葉ぶ対ちがうず。除は直一よしく
なれまひく〻。赤ゑさ木なりぶ。木と成てハ接の
ちくよう〻 ○皮を剥れる。ぶ。まだよくとへ
ぐも。三度ぐらぶ。こと割べし。又二ケ月一度づゝはぐ

ともいうぶ。泥と。実し。よ入よるべし。を度ば。
縄とかし。あにぶ。ぶ葉くさらぬあとこるせる。
されど又船は大縄よして。新の和なり。唐船は縄
ハ結ちゆあなりとこぶ。牛ゑの縄よしつるべ
おりして。久〻く持ゑるし。わらぶよ作りて。縄
ゑくゆかく。去泥もつぶ。軍は乃ぶらぶよなる
らぶどとこと。鬼ゆ〻。弟に作るゆハ。唐は書よい
ゑ〻ぶ。山木は。ゑくゑゆ。多くうのしぶ。ぶ花を
さわをたいべど。人力も入ぶどして。ぶとゆるのハ
多〻。ぶ船多さ。ゆ多くうのべさあり

山大根一筋ずつ大風の時芋縄十俵のやくよりべしと云なり○肴吉塚とひらくさうるちの縄一ぱいげとゆうりもしくはんれぐ根と結ぐしうりも探搦乃縄ずつ抜をかしげうるゞ縄だうりい結すしく。
あつて根と結でしうるとちるしゆうりの巻ゝ結るつまうゝ安くせうやすしゆくうゆべしゆ年の
根ぬけ者労もなくしてぞうぐゝ1度ととりたしうゝ刈とゆるゆううゞひまし

檀 オニ

かしの木。根ぬけてゆるゆうあり。先山二月

結れてくゆくゆくゆ

なる五つ穴にてうく法よゆる六月久しくもゆる火
を乾乃ふ火ひまと脚ゐ七つ蓋よ焼くく絶ぬてり火つ
うく久しく消ず八つ灰の栖にて強きゆ新ひ色
九つ擄掃にて〜ひよこゆゆ本るる〜十。擅ひいろ拂よ
〜十一蓋紫うく地と肥をナ二帝町よひさをそい。
茅の優うきさゆ撫支れ利多〜十三蓋とれ亟
て。飢僅乃年食地とおしてをとゆる十四代く強りう
茅ごうよく生じ紙きうゆる十ゐ山のごとく新ひき
国本ケ多くうゐうく必國而と振すうきゐる
うを弘知トにて改ゆと物行くるゆ〜くゆるとき

へきりゆと用ひおゐ。漬よえ法茅れごとくかれゐ
おくきを出きゆ而よ良材多くゐ茅よりきゆ根
かりゐうず ○うゆる法九十月実を撰ひ俵に入き水
とかけ浸を亟又ざうきをきゆ亟ひゐ亟とをきうゆ。二月
凍ときく苗地と曝作りし菜をうゆるごとくゆると
二三すときゆ一粒づひ茅くまれぬと厚くれ上
と蒔付亟ゆ〜くゆるゐうびゐきゆゆごゐをかく
べし。曝れ南乃ゐて厭きくゐ写茅そもうゐく白を
ふせぐべ〜ゆさく来年正二月苗写ゐすゲりゐると。
ちと付くく掃おこし移〜うゆべ〜 ○図くく移す

ゆる地のくぼまるかゝ又いを蓋乃ゝ
ゝ年より焼うちく蕎麥かくゝと蔚蓋ぐらくお
ようゝ麥を蒔る蓋ゝ地と掘うゞちゝすくぐるを
ゝ又ゝとゝくゝ元とかり指さゝ地まゞうさゝる時ゝ
麥ようゝ蕎く蹴付べし地のかゝきさゝる時ゝのべゝう
ゝゝゝうゝゝひるくいゝとゝくゝしゝまゝり蕎ゝゝ
ざれゞ一ゝも指るゝゝかゝしゝ又ゝゝ麥ゝ実ゝとうゝる
ゝゝゝもうゝのべゝ麥ゝ深くうゝちゝるゝ木乃根ゝもの
ゞゝゝゝわゝゝれゝさゝりゝくゝゝまゝるゝゝさゝりゝのべゝゝ根廣
くうゝちゝかゝ一二三粒づゝうゝゞちゝゝ深くゝふゝゝゝみ蓋

べしゝくく蹴ざれゞ生じゞがゝうゝしゝゝゝとゝゝ木ゝ紫蓋ゝ
ゞゝゝゝゞとおゝひゝるゝも当ゝうゝ。深くうゝくゝゝをれ
ゝゝゞとゝゝるゝゝ雑ゝ結ゝりゝうゝちゝゝかゝさゝあゞるゝゝ
ゝゝう。図ゞくいゝ小乃里ゝ苗ゝとゝゝくゝ仕ゝゝゝゝゞ
ゝゝ入ゝとし。蓋ゝしゝとゝも見ひゝく酒根ゝゝくゝさゝゝくゝゝる
ゝゝ。ゝ二月指ゝしゝうゝくゝたゝしゝゝゝるゝいゝゝゝゞゝ根
ゝゝゝるゝすゞゝくゝ。ゝゝゝゝる見ゝ木ゝくゝくゝゝの指ゝ云。
雑ゝ木ゝゝくゝゝれゝゝ信ゝ信乃ゝゝゝくゝゝ。蕎ゝゝての
酒ゝゝゝ。ゝゝゝゝて蕎ゝ蕎ゝ食ゝ深ゝく。一日も
ゝくゝく汁ゝゝぬゝゝゝゝゝゝ根ゝゝ蕎ゝゝゝゝゝゝ

是ぞとつくむる一塊ゝ土地肥饒ときは
りどいでゝ苗を植れば豆乃初をのゞ発ちくゞ
用水苗とうゑをきさ幸く高くゝ生ち
べいう程やせひでげらくもかとおしてうへ
ぜまるとわゞ穿あけすぬ土地いけれありぞよ
伸る程ゝうをきゝ芽をあるおれど一反
ゝく種付ときぬわゞるゑも後ゞ蒔と蒔
氏をやしかゝ大小豆ほうゝとゆゞ麦
しくハ絶倫ゝ紀しとくすり

推 オ七

志いの木。乾木薪ゝ
く。擂ゝハ及ゞとゝゞ
も。又ゝ他の新木ハ新ゝ
てゝ。根菜ゝくさゝ
茂りやもく。ゝてのびて
ゝ小も強く。根菜苦ゝ薪ゝ
ゝ。実ゝく收めとくさくハ飢饉ともゆるおなり○
又ゝそゞ推ゝく。実ありく大く菜ゝ。ゝ
穀食ハ不足とゆゝあゝ。ゝ林乃本ゝハ傷ゝてゝるお
なり。ゝ平ゝ穀田ゝくさゝ而ゝくハ。ゝと実ゝく收りを

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

さくく。芽は梅よりも見ゆると云なり。葉は柳よりくろくうすく。花もちがひまるどもんがく強く風の
ふせぎぶかし。度数とりの趣ようくもよし。実も
木も他木にまさるあり。すべてゆる法橘乃木と同じ
○又とちと云木あり。木弟山のおほし。そう葉かう
の木よりかくたかくぶそ実餅にして食べしひろしよ
うと又にも記されある木なり。実は橘乃実
よりまさるなり。ねとかくくらゆし。木弟のこゝかぎ
ぐ。伝説もあるなり。木は柔よく接ありて。
黒ぬりて又くゆるするものなり

櫻　才八

櫻は本朝の名花なり。唐
にもかれゆくに待なるな
とゝんとうの花のゆへ云
にはなぐどの林よりなくう
つく。材木数よりもすぐれ
ねばうてはいたにこゆる木く
熟へ一歳うると指ひあつめ
るがねぐるち指よう。時は作り業萬ごくう
らくぶらくそうまゝ月前くるよう。又木は二月より

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

くまなくこたつと厚くおおひ養あたをそくおむ苗時。
移養に合せまきそこるハ苗よ。ようとお晴なるを
べしくけるなり。肥地ハ苗をくまなくめし。
ハと見のれを召一年ハ二三尺もふろ酒招
ようくけるゆへ麦もこのかなり安さなり。苗を
くにうくもくやけるく。代もわるも悪し。ほそ大うと
乃稜地ハそも。ぜもしふろうきうゆるゆ迷うなりよ
ゆまれ時とはと剥くハかでとくとそく拵なにゆく
見ひそるか細ゆに見ゆるなり。中本と代くもやそ
かぶうゆ茶あくかどかく茶ゆるなり。花と黄

ド木と見のゆ多くうく國用とゆるなり茶なるすと
よかなれ木かれをとそれ苗とくゆうのべし。和
去ふ去に豆しゆ地をなすず。苗なゆ。代和ち茶白
何れもふ去なり。○ハきさうハ実ようれなり
とゆ苗ゆ作ハきれも。今海酒のゆ茶。茶白。初
ゆれ花とえれを世麦をふれ見よを乃かよて。
代稜よ稜づるゆちそしゆる。されを武のきんと
尋べるハむべなり。祈れ社のおうろ寺流乃なろ
にきめやうふ山本をつぎ狩かば年を宝くゆ何
ゆれ地そも。大和酒乃花の系氣とうけくし。

そこなを用ゐる人は必ずこれを見るべし。今民間に用ゐる所をもて屋ぶけうすんようぐるまく他のあざけつて捨たれくつげすきをとあいこてに書ものなり

柳 生九

柳 そもそもうてくはうつ。なまとかうくいは梅梁ともなるものあり。山柳は紫丸ぐるくあくまやうふしてゆぐらく揚ねよれらよ

しぼ柳は白くぬし。又垂柳あり。ちはをとるびくうのべし。正二月頃さ柳乃ねれたさ笛竹ぐかるとと。長一尺ほ程よ切なのあとかつさぬる堀地乃かわをうくるぬちとなびけく深く埋ぐたくとうくね程にし。そこ乃一二尺垂くうく路付との地乾ちべあとうだ垂べ必一月ようの多く生ると中うくうくくはつうぬと一年ぬしぬ。そ物はけくと竹乃張く垂なると一年ちうとうそ垂。一尺ばどづくるとそて。おわうう小縄ちくぬ木を活付垂べ一年中に垂一丈もるくなるべし。そ植ようあるねをバぬるけて玄

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

で。糞よろくする事はまちまち人の糞を仕すべし。ぶう
よふをまくるへ。数年をつゞけてしようき材木となる
べし。又下溜あれば下くさ。又穀よいろいろぬ田に柳を
うゆるへ。材木新乃不使なる所へうゆる事
なり。七八月あれ乾きさる時色よ新しき糞。去よりり
く晒を作り。虫の喰ざるやうに柳乃根とるべく。根付
切接。惣とうゆるごとくうへく。根と出く路付糞を
多仕なくるべし。糞よ作りぶらに作りぶらそ
のかうへ乃に作るへし。ぬ糞とも入れ其ふ。虫も付ざ
る法よ。晒乃ふりもさりやうふとくべし。又は柳根

根と多く切れくうへ。三尺すゞりよりて。晒
と作りちゝまれをよとをるくへにくかき付為と
ふり糞べ。根よなりく糞よ作るかどもくさう。肥
さる所へくへ。一阪乃利ぶ多なる地あり。山木の地あ
る所へ堂しくとくすと紀せり。日かゝて後肥地ふりる物
うゝいはも 淘米云曰。柳とよ柳うゆれば新よ柳かくべ
かゝぶ。材木にもなるべし。ちゝあるへ乃くうゆべしとも
○又ゆる法。白揚乃根ださ拾かどにして也三尺入り。
捕とべ切ちくとゝかゞめ。中根とちよゝ付ちとあは
へべ。あ乃端おちをおくよふ向ひ直よなるべし。山ぶで

とくして二度ばかりもつるを蒔てく。一陌もうゑれば。
一万四千よりあるべし。あり瑞うゑ芽立わるかぬ。
ほつ分れ絶くる田あれども。入穀に作るゆゑなるあり
ぬ。柳とうゆるいはぬと更ゑへし。柳もあるまうゑあ
ぬまる所あるべ。あれ乾る時たとかさとつちるものゞ
とくしてうゑべし。又柳の下に蒜を一枝づさ一人蒔べ。
虫れ生ずるゆゑなし。又極月吉日に柳を裁れば虫
生ずるゆゑなしと云り。○白楊はことやなぎといふ。
ことに柔なきこと柳に似たり。むかしもしやすし若と
と。京都に多くあり。ことに柳なり

波羅得 オ十一 草之部

白木と云。実あり油をとる。沼州所々に多し。畠又
うゑる。民用とゆるといふ。

檀 オ十一

檀又ちんは木とも云。二種あり
つ。一種は紫ひろくして榛
に似たり。ともに田畠のあ
ぜ畔にうゑよしなり。

波羅得

檀

おとぬバねとゆべし。山茶ハ実とうめハだ早く蒔こもし。こ年にしてハ苗となるとゑ成書ちよもうんこうり。ゑ成用よりあり。ゑ成ハ多くもうゆべし。田畠とゆげざるゆへ苗かき取。山茶とゆ苗どゆる取多し

ひごろぱのあ
あくろ元成の

いつるゆハ木ねと苗取ゆ。ずゆ。ゆ竹とゆひわ〜〜ゆと耕
くゆ。ゆうをゆけ。ゆんがくゆ。ゆ。ゆをゆうまゆひ付るゆ。ゆ。ゆ田取付るゆへあり

山茶

俗ニ椿の字を用ゆハ非なり

才十二

山茶ハ花と実するのミ
あらゝと実とゑ多く油と
とれ。ゑ成の用をゆく。

竹

才十三

竹とゆる地ハ。ゆくくして
ゆうゆる取。山乃麓谷川を
さ西の黄白狀の地ゝ宜
しそむ紀くれゝく沙
ゆ。ゆる和ゝゆる地。湿れ
なれやゝ紀をぬむと知べし

○うゆる法。正三月一ゆ。ゆ
三ゆもゆくゆくゆるとゆ。ゆちを廣くゆそ色

山ゆとゆど色白ゆ。ゆ地とゆん合せて多くもう
ゆべし。竹ハ材木ともなるものなり

つゝれ根をぬくゆるゝゝくぬくさけぐみけぐるゝゝ
し。まゝとも根ともおづくとめとく。なを数日ならべ乾
の隅に置と度くかり。根ちんれあをあ面れ方にひき
直ようくぬちをおかるゝ大すぬ。根のうどゝ
ぬゝ。三日ようませゆひをくべ。時付くひるゝ
かりれ路行るゝ行をうゆゝ長いひるゝかりむ清水
すぐいゆくあとそくだぬ牛ら養。麦稲あるゝ
ぶどゝいくかどもよく入べ。行いれ分あげちの浮と
るようくゝ麦早さゝ根かり○又竹いうくわさ
ようゝ根ちそゝるいうぬ。又いゝ長と洗

ひるゝけぬゝ面ぶど洗ひるゝあゝ汁をかくれぐ麦と
せそして。ちゝく痛ゝ拭るゝ根かり○又月菴と云
人ゝ行と栽ー注へ溝と深くかり。乾ら養と混ーまぜ
一尺ぐらゝもとくぬ及いゝ根とうとくぬいゝげく。
三日ぬを一かどくして濃くるたといくおけ。
混ぬとかけませと三度ゝゆひくゝ根のたとびこびし
くうら泥ひぐゝすとゝゝ○又竹材の方れ科
とかゝれぬ麦くれゝ方ようゝ根必あゝさす
ゆゝくさゝゆるゝとゝゝ麦の中ぬを入けくうゝ
べぬ麦れ何ゝうひぐゝ竹よかぐゝず法未も。

落ちるゆゑ多いこゝわかるゆゑ又流にも竹をうゆる
よけれども。毎年十分に成とも又竹を栽るいとわ十
三日。亥と竹破日とも竹遠日とも云て竹をう
ゆゑ百にうゑこゞひかく。所さうゆるわかるゆゑ又必又有よ
かぎりなし。毎月廿日竹をうゑく落花花云ゆゑ又三月一
日二月二日三月三日。亥も又うゑる竹ゆゑ又厚乃日
に毎月うゑべしとも云ゆゑ竹をも厚く養く
藤云。一説に教人云く竹をうゑれば蟹
出せざるゆゑ。又菊と竹とへ植るべくよろしゆゑ
るわかれば活と云く活く。亥ゆゑ又竹ぐさゆ

ゆゑわかるゆゑ又竹を植るに一人して竹をうゑれば
年にしてさうゑ十人して竹植れば一年にしてさうゑる
ものなりゆゑ大きに竹をぬきとるものかぶかさをわぐるを
かりぐぞ。ぶさ竹をうゑくもかぐをふくして竹蓄ゆゑ竹
ごとく竹の下に糞を多くうゑ竹きばかりなくさう人夫
竹とうゑわかりゆゑ竹をうゑ雑を植ゆゑ竹林の中
方れひさわゑ竹を猫を植ゆゑ竹筍多くかゆゑ竹
わかり。○又ある竹を植きば竹ある又を植ゆゑと
ゆゑ竹ゆゑ竹ば活竹わかるゆゑ竹の屋敷よへ。
ゆゑ竹ゆゑ竹ば活竹ゆゑ竹活ゆゑ竹活ゆゑ竹ゆゑ竹

つゝとゝり ○又竹を伐ること。三伏の中ゝ又七八月とよ
ーとゝと又臘月とゝれど実嘗ど ○竹を伐ること。
四とゝとゝとゝるあり竹ハ七八年もゝとゝれど花と生ず。
之竹をとるゝなり。こゝる竹とハ竹しるゝく。四年ゝ
ゝるを伐べし。竹林とまゝゝ宮ゝ竹ゝ四
年ゝゝゝ

よ作るわあり。弦云竹とく往つ上戸へ。苦れ色一寸ニ
尺ゐもなり。又いろさ一尺よもくゝぬ細竹もあり。又
日角なる竹ありと記せり。○又河内ゟ横こが沈の流
よ竹とうゆると云。ゟ日ゟ紀よ尺んこゝろ。ちよ濃う
うくゝ。その柏を。ようくけゝくなるわゐ。色
う紀ちよいくさうゆるわゐ。泥河れちゝと葉ハ
必竹とうゆべし

園離を作る法 第十四

いけがきに作る木ハ。夾橋。枸杞。五加。秦椒。梔子。刺枳。茨。
橘。柘。泥竹。ゐゝ多し。此の外ハ。夾橋うこぎ柏

杞。茨。ゐゝ宜し。夾橋ハ盗賊ゟ防ぎ。ゆゑ
わゐ。くこ。うこぎ。ゐゝ。茨ハ。葉ハ茨ゝ葉うて
も用ゆべし。柏ハ共ゝ品葉なり。泥にもよろ。柏柘子ハ
功績あるわなり。○うゆる法。夾橋ハ九月ゟ熟へ
ゟを採るとゝり洗く洗ひ。裏ちよ合せ。麻の苞
ゐどにちゝまゝ紀を厚くおひをくべ。ようくまる
わなり。○柏杞ハさゝ本。ゐ本ゟ。ようく濃るわなり。同じく
屋ぐこハ。肥熟ゟ法と葉とうゆるごとく晒作り
裏と多くうちさゝゐ。ゐとく葉と宜すよろう。
葱ゟうゆるごとく宜。なゞ一科ようゝをゐゐも葱ハ

どうてだを厚くおかひぬようとゆ付ゆるべく。さいく
養分をそそけべさうへ養分をそそりかし。猫ひろく
はびこるを入て。猫しうゆるもよし。ぞもまく畠へ。
悪ごのごとくうへ付よしそ刈ろく第を料理。
弱へ養分をかけ置もかぶくさうくくるびくれ刈
用ゆべし。はびこれ時ハ猫ハ骨へ付るつきまと。
骨めつよ一ねづうへをさそ。横ぶらとゆひ。犬猫ゆと
とらざる時よとべし。骨へハゆゆ来。而へうく
杉樹もうし。ね来とよてゆ付ゆるハのさりと
もかゝと ○加木ゆ来長さ一本へ多くさとき

く。元も根を生じて猫しうゆべし。山あれ荒くも
苗を植ゆ苗へ猫しうゆべし。山ハ下へハ刺あるゆ付
厚くうへ骨に横ぶらを植へと結ゆるハ盗賊の用
んとなり。かひぐくくんゆゆのをもとゆ。実を元。
来をゆ花もあうく。山居村居の屋敷白ゆうハ。
ぶうくゆ籬と作ゆをさく。家ゆをゆゆ付ゆとも
ゆんべしと記しとゆ。あゆ骨へ猫猫もよ

植木栽法 第十五

丸木をうつしうゆゆハ。ぞん会を入を来あゆ。
を付くぞ。方角を習べゆゆ。ださゆ本へ根の

ときは分に程よく切て横とも也く切拵へ一切れ宛
とれ程すくなく成ぬ根葉もうすくなるゆへ風に
いとゞも木のとれ程すくなく成り根の成れかつまゝゆへ木にくくり拵る事
○色木と拵るゝは第一切り成る事を入べし
横根をとく切りくくり成ぬ大切なる根は強に成べ
し大なる木なるゆへ張ぶさき木あしばは強に成きるべし ○根よりもちを付る事
うゝりぶちを大く付べし ○大なる木なるゆへ山沢
の木と拵る所は紀とでくぶ居を立中に拵よろ
しくすべし ○くせざれば木は根を座まぐ拵まり
る所そこれ立根とのおりにとされくぶるゝあれ
ばなり ○むしろさ木は実よりねぐど ○けらを色ひぶき

こもらたりれ根とぶ立べくぶるゝ切ずれ拵
あくぶそゝとを縛て会を入葉和も多くかゝげり
もたれ落ざるやうに色ひべし 但こもるの動しきとひろきとけちの
ちとれり会ぶ切おるゆへ拵きとけちを
○木の根は印と付をくぶ成る時の東西南
角ぶかゝるざるやうに拵べし ○木の根のかゝるやうに拵る
地とひろく深くかるべし ○大なる木あるゝ大小に
よりぶ二あるゝ根を立ぶ実はかゝるの木を一限り二
ざんらぶく結付拵る木をこもらとく色を冠本串
よゆひけくぶを立根の先和屋れ拵よあるゝ実かざる
やうにすべし ○ほ分ぶを目ひくかるとゝどもぶ成る

どにく。根はけちはぶそしてぶ根あらうてへそそう
ゆる時そ横根ごんくあるとよとうちと入まぶとうち根
よるよ二隠くうそそちと結くゆあ横根のはれ付乃
あうれ麻まくぶちをうきよとくゆりそそよて横
根とすんとうちあくちをかけくもを根下乃あ落
きうどうくおれうまれ付るる根のけりかりうなや
うよすんへぶそとのちをゆひるゆもかくけごうへぶ
の隠乃根ともぶまれ付れでうくあるはたんと同ぶゆうう
よぶんくある根も落けんゆとをかくへぶあ出うに
せぶそしそようちあうちをへあまうそゆひるぶ横うあ

る根落るそれそ根と一つよ付るうまうう樹木などの
おれ根乃こうき木ハゆきうう根ぶへ付るる和より。
落おまうく根るねけうぶくひ根ねどもみよちうりハ
この方るるかし！ ○木を抜く根
乃ちとかくひる時木れすぐをとを結ぶあうりうんそぶよ
うのべ一ぶ右よ祇すごうくぶ先ぶをを抜くほぶ三あに
剛木をゆひ隠ようごうぬうにすべ一ぶ根のちぐうあ
の隠う抜くくひんせざんぐ木を抜しうゆるゆハけう
ぐうぶとこ一名ある人ぶ木れひとぶ一ぶうこのあ
隠を考うくたとへぐを木のうろうよけりうくう第し。

そ安くんしく紀伊国より。種書べしぷ。高野の人より
ゆをつくるもの。紀ノ国より。かるひげ。又小木を作る
よへ一人いとを抜く中よりひさげ。一人い高てこたをべ
きぷ。ようの時。ぐ。ぐ。ぐ

○又木を移るゆへおれ地より生まるる行よりかく深く
うつくゝ今れる地よりちと根のたとうくゝ至べゝこと
ゆへいた地の深き行ゆへ能生長するゆゑ深く
うゑわるよれ沼氣とうくるゆゑ深く花乃ちうくゝ
るゆへさうへ多しゝ又おようも深くうへ花ゝ入まべゝ
の陰地多くゝ下つへ地深くなりゝ陰氣深きゆへ木ねさ
うへ多ようゝずゝ木ねたゝ木ゝ陰ゝ必ずこうえあるべゝ
牡丹ちどのまゝ花と移るもいんゝ同じゝ支花木ゝ花
と移るゆへ低今大ねうりともゝうゝ出るゝんと移
ひゝ美せざわるこゝ契びゝうこゝ美ゝゝとれるゝ

ひとゝつくゝ屋ともすべゝ移ゝ百ゝ人れ人の内ゝ
外ゝりくゝそゝるゝ美しゝうんと撰び移るゝ名
おなり○木を移くゝ根の白ゝりゝみをそくくゝ
深ゝ紙すごゝ○又一法ゝうゝとる法ゝ花
紙せり○木と移るゝ花と深く廣くゝ木と重り
うゝゝくゝそ去と入まゝ陰みと入まゝ入る
去と泥とゝゝ花の内ゝれゝとゝうるゝかくゝ入
又花より陰くゝ去とゝさみ内べゝ木ゝこと泥紙
薄ゝ木とおうゝゝゝもうくゝゝとゝ陰ゝこと
くゝゝそゝ平地ゝうおゝくゝ去とゝ色ゝくゝ

あかいさぼうりょうれ目あるをぼうと略付ぞよこうえ
ちをぼうすもうるくよをぶべーぶいぶべーうず梅
木はたかよはひくぶとりよちとはくかちひとつきを
しぶそ四よれりくあをへをくべーぶのちをかへりす
へうーずぶちきるーべ三あうりひへれ木をゆひ風よ
もうごうねぶよすべーぶちん木をこもうへ色ぞぶよ
をひへの木をゆひ会すべーぶ必風ようどうすへうーどぶ
へごけぶ下はれ木いをよなびぶぶかりそめよもうどう
さひごうーどぶよ四をもはづへうーどぶ六書をよすべう
らぶ○四ごうゆる時ぶはれ月ぶとはしぶ二月

を中はとしぶ三月初を下はとす　又大武はれ梅ようぶ十月のうげ
はうきあうごうひぶまげ於ても　本をぶ十月ハ皆陰の月そ。
ようはくくとひうけう　色麦は鶏ハ掘れ兎国森の蝶蟻
眼をぶくてぶそ木くれ芽のはうごをぶまちをひへの
ろはをぶくうさうをふとするるまりぶはるるまぐ
ハうーぶまをいあーぶ木毎はは分一くよハをるしが
さーぶそるれどもるべくれ木ハぶ正月より二月のはまぞ
をうーとす。色は月はれしぶはれうへをかれ大概と
すべーぶ芽ちれ九をあうぶ実ぶるものぶを花書と
もをけうぶ正月一日より四はあ日ひうるふぶ梅と梅ーう
ゆべーぶ他菓実のなるあハをとなる日より下ナる日ハ実

かゝるに。あたる本あるべし。年もおよそ接ども
落し。根のふとさ分ハ切ちくぶのごとくにして入れ
置べし。接根とバかりそあるよも接ぎうずさくく
うくくハ口おゝひとまるこてゝ乃時ハまべ。ぶく気
を入れおゝがゝどもくぬぬるようのきバ時をさくゝど
活るなり ○又根の下に。数表るゞ接ぎうとま
さごをようゆれどよく活るなと表るせり ○又木
と接ーうゆるゆハ下ナ入口とよくとすゞ十入日分木
乃せ気まく根葉ある加接せバ性と傷つ。接ハ則
気と失ひ。又付ばうるかひ乃まゝ中にみちくゝべく

とくく出とけまゞ。溺れさうんなる時を見とんなゝ。
かれ湖乃時ハせ気根よあるゆくよく活るなり接木
も同じ。但菓木ハ下ナ入口ハ実すくゝ。 ○此のゞ
く古書よも紙ぐ多くれども。品まゞなひれ新
うくゝ。花よハあゝゞ。偽よかり接接ゝう。あゝ花すさ
くくんとあゝ気と入ぬれゞ。ぶ本るゞ。ぶのち彩
ふ接しても病ひるゝ。唯接くんと見ひまるゝと
あゝすふあり ○根と接ー接るゞ活。接を接るゝ接て
んと見ゆべ。ゝゝゆハ。花樹。菓木乃新ハ接と多く付
かゞ。根乃力かつあ本ゞり。番時あゝ気ども。接くゝ本わ

うえくおようよく花咲実のるぬけうぞうもうれで
病むでさとバタ〳〵ねと枯く〳〵ふ法るそうれ
対る術あり。只松本のうねつきとふく弄びとす
るあかれど捕と伐ねと断る成ぐ〳〵されど絶く
んとあこし。拾るも稼るよも拾をそこけひ病るゆ
けうべ〳〵○林よある木を稼しうゆるあ〳〵バ九十
月の比ちんこ拾をほう白しだるる拾ハ人えうひ。
長くけどとと絶けうる代べ〳〵あ拾ち。あへ去こよ
く。拾よえちれ対まぐき和けべ〳〵ゑく田去と拾
十日こあ〳〵ゑく。木拾のすかちとべちんのとぐうる

拾うえく。拾のくさまざるはよ実落〳〵く田去とふく
拾ふちとこ〳〵ちげ〳〵うバめあを折てまあう
せ絶拾をかくむべ〳〵そ拾ハもあまれるうべ〳〵十月と
一二月もかあとそくちと拾をあこうひべ〳〵が
〳〵にちあく。沈れちぶ長十四十六日の間よりり
稼すべ〳〵あ拾のうバ二月のそよ入ゑ七日十
日まぐもくうかうぞ○りれ時ちるる木あえ。
三方に汚渇と付く。俗よたをれそこれ拾すべ。
むち弁とちあく拾ろうう〳〵ちよ五ハあ〳〵紀す
ごう〳〵○拾のちちこもたうあどと泡くはさ紀

押蓋とく。縄をとく。抜てもげく。結ひかさしるる。色又おなじ。付よ同じ。○接ぎ木。ぬりぬ。ぬりぬ。接とる。接とる。接とる。接ぎ枝ぬぐるはぬ。又下枝をかくしひろくるる。要しくおよんくくろう。○うくるそ。はぬ。こ木。よひ人の木。接ちとく。用ゐ木ぬりごうぬはよすべし。○接よりと流くるもおこ紀せり。○たるる木にく流ぐさるん。かくるくだ切ゐらとこ見ふ木をしらば決れくしの長。木と接ぬぐるるよりり見てくるおりごとくちとべきこくぬりとをぬ九月ろ末又りまり。接とうこかしそかるのごとくちとはぬとるるくこんめ乃長

長さ云のはぬ天新しぬ日ろり接すべし。たるる木栄ずるよろ三本にかそ〻とはぬ。ふ伏せ結多材木と入れ。あるるよ枝とぬ。ぬくべ〻ぬ。はとつけばとこ接いくむ初ろ車あ〻ば車よつと東北くはかろうろう人数多くよせかるくるあ川ひ。わも木れいくまぬはよすべしぬちをよく付接乃いくまぬ術をおせぬ人八人〻くるくぶ接れ木八十に一切も先かしぬ人正人接くぬろふ本といぐも十よ七八八必源るあ乃ろ又巻木の木木接接かど材接とよはんく年とかさね接

とりのぞき。そびくあつくひくくはぶくうゆべし。
こうくとをはんごろよんをあわせ。かるくゆかし。お
よそごとく。花樹葉木はかるべ。ほうきをもてはき
るべし。多くはるかど。根乃かはくしてほの葉へ
うるハ

接木之法 附糞と肥 才十六

木を接はねくあり。先養木を植よ。其
ゝるがよし。心ようの傷よりゝるハ第一ハ細根多
くはぶしてばめもわらく。生付かるわかり低今う
きても。ゆくとそくはく年とつくハぶうのごい木

よ接ゝるよハ劣わり。ふ接ようゝ花
かをを用べし。ふときもつゝ柄かどけるを中
分とすべし。梨柿栗柳梅接乃新ハだゝ木ゝ中に
ぎゝゝるもつくわかり。椿橘の新ハゝるくいつゝの
らゝどだい木ハたゝとくゝ合せふとゝ接ゝるゝ。
されどゝるくゝゝと。一尺ばかりよいゝとゝ。又下く
ともはるすゝ逃べゝうゝどゝ下きさハ活やをゝしゝどもゝ。ごい木
乃皮切口を包ひるゝ。ゆさ木ゝるけまゝ。木ハ椿
ゝかわくゝ。ゝ活よゝ及ゝ生ゝ氣色ゝ。ゝゝゆゝ。ゝゝるゝゆゝあゝり。ゝ
ゝす一尺の乃を中分とすべし。○歯ハ洞ゝるゝ

こそぐ根ばかりを切はとんれんぞまきあるりぞ
まき目はそこそこあれに種を付るわかるを
く削つぎ接種のもさ三寸ばかり一寸方を一寸ばかり肉を二
分一ばかりかけくうぎ色〜かわまくぼうくこ口中
乃生氣を借り極ごい木は種を付る所を種のそこざこ
る分すよ合せ肉の内よおかけく皮を切ひらき小力
はきりこる肌をひっぱくして種をさ〜入竹の皮ちお
りこの紙を油紙ちくも一重まきぞこちよとあら考
う打こちぞ又は葛かげ〜乃皮目ちくぼんこそちと
一寸ばかりもまくこちと紙又あ者もとそ〜ず嬢も

入ざるまよ綱〜く包まくぼ日おかひいわりこう竹
乃皮にくぼりげはちりい種のさきんゆるぼよ竹
けく包ニ紙ぼりと鶏大もさりこねぼよ竹をさ〜
かこひぼ〜こもにく包ぞよとおぼく面毒乃氣
おあ〜氣乃こ〜ざるぼよすべ〜む泥こくぐ
木は切はと。二寸程ぐ厚くめり白〜者まそう
つくぼうかひとりべ〜ぞ接昇ぼくいあをわさよ
こぼ多おづこそ紙ぐい木は白をかいうすべ〜ぞぐ
い木は皮の一方を切こかさぐ〜して接ぐると袋接といい
こうあり。又皮と種乃そぎこるすよく合せそぐる

して種の皮目とごい木れ皮のあと付合ひしてが
かさ〜せて〜く種とけるゆ〜〜
ちづく〜だい木ゑ付る而と。一すゆも種乃肉とわ
かけく。ひ〜ゐく削ゑ口ゑ。うくこさそごい木れそぎ
ばい割るゆ。但ちりひ〜くゑ。ゆれ木とわ横ゑ
切皮とわさゑとひ〜さ。種と合せそ〜包ひ。ゆ
ゑ同じ。さ〜ゆ〜〜〜くゆ。けさ而あ〜べ竹の筒ゑ〜く
も種乃ゆとさ〜べき。風ゑもうごゆ接木ゑ接付
とさ。ひ〜ゆをべき。夜中ハゆれめるまざるゆ。ゆり
ゑゆとかゆべ。ゆ〜く付く皮肉ゑ〜〜肉ゑ〜くちりあひゐるとん

く。ゆ〜ゑ。ゆ〜ゑ。種れ下ゑ切ゆ〜ゑ而とゑ〜〜〜〜く
ゆ。ゆ〜く切ゆ〜ゆすべ。〜〜〜〜而べ接を拵るゆ付ゆ。
○又さ〜接とい種とゆ〜〜〜〜ゆ。芋魁ゆ芋芋〜ゑ
くゆ。だい木れさハゑ。肥ち〜〜〜〜切ゆ〜〜ゆ付く。柱ゑ紙
う〜ゆ。ゆ〜。種乃ゆとゆ〜〜〜ゆ。ゆ〜〜〜〜ゆ深くさ
〜〜〜接ばいゆつぎゑ同じ。○又木と接に二れ秘ゆ
ゆ。一切ゑハ木れ服〜のゆ〜〜〜〜〜ゆ〜ゑ
い種ゆだいゆ若乃而と切合するゆ。ゆ〜ゑ。ゆ〜ゑ。ゆ〜ゑ

あり。方言はしばらくの間じて。ひらく。芽をとぎすわかり。すぐく。木れ出ハ皮ニあるうの
なれどかりかり又接かと深くぶの木の皮より剥かれくれば。ぶの木の皮より剥かれくれば。
るかり。凡つぎ味のたるかり。深くよきうり。食ニすべき。百ニ一ハもあやまちなし

○又よ
せつぎ。ぶ。ぶなどの毒木と。樹乃つきようへをき。或
木ようりく桶かどにうへ。ぶ木のわきにより生て植
れある枝とりさらあ。木をえらく地よ打てこと。そ木ニ
叩とゆひ付置て。接るハおよ同じ。是ハ百姓うこびひ
かしされどとかし接のようくつ地さるうハ。蜜ものを
しいりんとかれど接ハ。ぶりりかうざるあなり。
しかも接ありとゆへども。さのこ蜜ゆまし。他仕年れ
人乃接るハくつきとく。老人ハ精神をしれゆ人多く

ハ付かるわかり ○又巣樹を陰地をるゆハ正月中。
下ニ入れ乳きさるハ小枝とべ切まべ。そうまく蒔ハ木の
力色ニかわく変わるし。木ごとハ変れあるぶ
枝ありぶを寝とと切すうちをべ。かくすれど枯乃
枝さうハ絶えるわかり ○又木の下を常ニ掃。掃
除しとくべし。虫も付ぶ。是ハ木ニ毒ニ
面ニ触れ氣とも是ニうぞりゆ人ぶ。ぶ味うれ
ぞ木叩け変多くあるぞ。他今ありても小さく味
もようとす。根の白りをぶあり地ようハおるく。あも
たまうざる枝ニすべ。下枝を接をゆハ。ぶを

のゝとんのゐろく。よれびかゐる迫とゝとゝす
○又樹木よゐをそぐる。朝晩ゐたゞきそか
ろくろくべ。わくうちかくれゞ痛むなり。○又
樹木よ養しとをくゐ。朝月待のおゐ他の月ハ
用ゆべし。されど樹よい花とゐるゞきお鍋のくさう
ゐしとゞとゝうちくるハうきくゐゐ。ゐゐ樹
ゐれゐるゐす。又畢せハ海ゐ養ゐを根の下ろ
そくべ。養とわ加くゐ根よかけるハ。ゐをきくハ
ゞきくゐけり。ゞき養ハゐのゐハゐ。○又花樹

と尋び。裸の木と嘆るゐ。ゐ花ゐ美しくゐ。ゐ実ゐ
ゐきゐゐと思ゞ。よゐ養ゐをゐく。ゐ根乃ゐ
とハかゐべ。はゐハ月ゐす。扱ゐくゐを所乃ゐハのこし。ゐ
外ゐ色乃ゐと扱のけよく洞ゐることゐとゐゞ。
ゐゐゐれハ扱ゐよ木とゐゐゐ法と紀すんゐよ同ゞ。
ゐゐよとゐゞ。花木ハゐゐゐ色ゐ。ゐ花ゞ
さ大ゐゐゐ。ゐ菓ハゐくゐして味ゐく。又
年ゞゐするゐゐ。但木とゐるゐする人ハ一年
ゐゐれゐとかゐ次のゐ又一ゐのゐとかゐるもゐ。西
所ゐゐ。ゐ花をゞれゐる肥ゐゐハ。揺ゐるよゐゞゐ。

芋ゑせ法の事

じきろ。さうかぐ〜そ〜よ〜さたを。紙〜さ〜〜。蕈を折ちゝめく入れ。かつ〜こ〜んハ。ねんくようゝ。ねんくようゝ。こゝろ田おとよくかして。こゝろ田おとよくかして。つ〜〜さ古ゝ。つ〜〜さ古ゝ。ぐ〜〜ハ。ぐ〜〜ハ。ぐ〜〜ハ

ひべし　○下れのときは木もせまくなる二尺だけ
うへ下はあるべし三尺ばかりなれば木潤く実れ
ども実より木長じて枝多く入まじハ実なるなり
しかれハおのゝ丈ハ高くなれ年来の庭もこゝ
ろ長くハ人力により花形をあぐるなれ例
なし　○くわこする木あるべし花もこゝ
ろ長く持て花を多べし　○花も
十年経る木を掘て根を入く二三年ゆるゞ花と見ゆ
とゝ木いづれも根がよろし　○花の根ハ花を
多へ根に花形をとるくすべし　○花の
果の樹よく実の成る所あるべし　○又一圃二圃の木
ゝくも実木ハ実ひさまぐく多へし　○枝と壁塀
とゝ　又民家あるべし枝をとる実成ることあるべ
しよりよく成を加へべし年くかゝるよすれば木
の枝も実ハとゝりたゝひたる木といへども花枝果木
皆業なるなり　○花果の木ハ根そも実と別
ひくあるべきなり　○花の木ハ根そも実と別
ひくあるべきなり　○花の木ハ根そも実と別
ひくあるべきなり　○花

そうの形ゆへかんごれきりさきるをんさきゝ木の
よりよりくゝ出てくるもよし○樹木を出て食よい。
硫黄雄黄二ものを粉にして文よりと合せふすぶ
れば虫皆死るわかりゆへ硫黄と河乃砂の泥と合
せて虫喰ひ穴とふさぎおこよりにぬるも皆死
るかり○又元日の晩方きたいれを炮し。菓木の下
と照せば虫ども笑るしるしとなりゆへ。
山のごくしそよし○又菓木のさくも実をむ
をばざるゆへ日の晩方とゆくこと木の中とうち。
が枝わくまざるよりなる程おのべく実るかりゆへ

どくするをと嫁菓とうくゆへ花よりまるゆへと見
るこりと○又菓の花の形よりを遠ひ。ふも常
にあるざるゆへ食すべるゆへ根の下に毒蛇するゆ人
かり

世人花樹と申し菓木とこのめるゆ。或村居閑居
ついくまある人ゆへ廣宅使燒ともゝゝん人或老
人ふゞ病年ゆ樂とせんゆへ花樹をとなれ。
又他のめるゝゞとして業さ系ゝるゆ呼るゆ教
なるべし或又ゝる稼高実ゆ人の為るゆ花樹実ゆ
べゝゝゝゆ世のおかゝ呼のゝさゆひある人ゆへ

を勢にまかせてかくのごとくなるの人は深くこれをあやぶ
べしまたは花果ともに人のこれをつぶして押しあるいは
かるべき草木をもかくのごとくもとりのぞくべしこれ
らのものをもるるの糸物のごとくにんどくやこれ微よ卑劣
なる人はこれをさいなむべきなり富
貴なる人は伝ぞかるべきなり清まましきを汚とおしてかつ
くこれを糸とするのあるべしんやこれをうく害わ
あるべし必材とかくあるべきまたはかるべ
きを絶れを意くしてこれを汚さずかくしてその
ものを糸とすべしいまだかくあるの人は深く

これを戒むべしまた菓木をもつくるの人をもつくるよりよ
りかくのごとくなるの人は花苑心花かごとくの
時にいたりてはかくのごとくなるべきなり
くのごとくなるの美味するのあるべきなり
よりさらにまたは物氣不良なる人は深く脾胃を損ず
物氣をやぶりやつれかくのごとくなるの病を生ずるのあり或は
子孫にかかるの者をもつくるのあり或は
悦ぶとなしとしてこれをもつくるのあるべ
きなり病をまねくるの多し
深くいたる疾は老れ醫術

特1
2296

くふし少大小ゆ落そ程とけるりおしく喫す
べしゆ花樹果木る花と和し乎むし人器ろる
おゆくんを見ひ情こを加へバ方に失るうしんぞ
んいさぞうくひろ系をすく溶るべし今山書
を改め紀とる序ぞりるこてる贅せりや

農業全書巻九

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用